

1995年 賀正

NEW大衆演劇に夢を追う



新春インタビュー

華艶の旗手 NEW大衆演劇 劇団誠 座長 松井 誠さんに聞く

芝居と華麗な舞踊絵巻まで、観衆を魅了。各地にファンをひろげ、大衆演劇に新しい息吹を伝えるNEW大衆演劇劇団誠座長・松井誠、34歳。新春インタビューは華艶・舞・果敢に大衆演劇の新しい歴史を開拓するこの人にインタビュー。

林 あじまておめでとう。出してもうと悲しい役なのになににこしてしまっ。「お前は役者に向いてない」と言われました。

林 (笑い) 人生わからんもんですね。その座長が、劇団誠を十年後旗上げするんですから。

松井 旅役者の生活が嫌で中学卒業の日、家を飛び出して上京。働きながらダンスをマスターしたんですが、そんなある時、渋谷の東横劇場の全国大衆演劇座長大会に九州から親が出るから一緒に出てくれと言われたのが、本格的に芝居を始めたきっかけです。

松井 ええ、小学校の転校は四十何回。姉妹も舞台上に立ちましたが、私はいつも幕引きでした(笑い)。たまに九州だけじゃつまらない。そして、ヘルスセンターなんかの公演では、お客さんはお酒飲んだり、おしゃべりしたり。芝居ってそんなもんじゃないと、親に思いついて東京に出ようと言ったんです。ですが、親は今さら苦労したくないと言っで、それなら自分で、東京の地で、大衆演劇に染っていかない役者さんたちを使っ

役者に向かない子

で、一から染めていきたいと、二十五歳の時、劇団誠を旗上げしました。(6・7面につづく)

新春幹事長放談 2面

パリ島の「ジエゴグ」3面

情報と話題の広場 交差点 4面

伊藤強の「芸能マンスリー」

「おおらかな歌を」

「なぜこの音楽？」

楽譜「アンネの希望」

新連載 「歌でつづる戦後史」

随想 「うたごえ時間」

ルポ'95 「忘れてはいけないあの日」

連載 「空をみますか」

載画 「となりの河童さん」

新譜紹介 「試験室」

話題の今夏音楽例会2000ステージ 10面

音楽評 「ふたりのゴースト」井上頼豊&林光コンサート

「お知らせ」
本紙次号1月16日号
は、郵送は12月29日に、
宅急便は1月4日発送に
なりますのでよろしくお
願いいたします。
うたごえ新聞社



一九九五年、新しい年が始まった。さあ、今年こそと次にくくもの思いが重なる今年である。が、まさしく確かな平和への道すじを。

☆ ☆ ☆
新春の陽が広島に長崎に、そして戦争の傷跡を残すすべての人々の心を照らすように。

☆ ☆ ☆
被爆、戦後50年。「50年は人間が自らの体験を記憶にとどめ語り伝えられる限界ではないだろうか」広島画家・四国五郎さんはエッセイに書いておられた。すでに50年、私たちは語るべき多くの人々を亡くしている今、力を限りに聞きとらねば、次への伝言がかなわない。

☆ ☆ ☆
広島、長崎の被爆の実相がきちんと伝えられていたら、愚かな核狂走に苦しむことも、被爆者を顧みない政治も許さなかつただろう。50年余、心身の傷癒えぬ人も、被爆証明さえされない外国の強制連行の人たちも。
☆ ☆ ☆
が、平和な社会を壊すのは戦争だけではない。差別と偏見、無知、無理解が多くの人々を傷つけている。それらを解放し、人を勇気づけ、生きる喜びを交歓しあえる人間の力。それが文化である。
☆ ☆ ☆
新年の編集部に、まさにそんな感動を伝える手紙が送られてきた。その期待。今年もさらに。